

## まえがき

【音楽は不要不急なのか？】

そう、これはあの誰しもが恐れ懼れていた2020年前半のコロナ禍中（COVID-19）で、何度も自分自身へ問いただした文言でした。

「こんなときにピアノレッスン？」

「こんなときに音楽会？」

などさまざまな激しい自問自答の日々の中、当時はまるで何かに取り憑かれたように必死で教室でのレッスンをすべてオンラインに切り替え、レッスンを継続し、そのうえ予防対策を万全にしながら生徒たちの演奏会をも実現させてきました。当時の業界では決して一般的ではなかったことを半ば命懸けでやってきてしまった、と言っても過言ではありません。

それらは『音楽を、そして学びをやめたくない！』という強い信念と自分自身の怖いという思いを払拭できるだけのとても大きな勇気をもってなんとか乗り越えることができたという、今思えばまさに怒涛の日々でありました。

自分の行っていることは果たして正しいのか？ 間違っているのか？ は正直問題ではなかったのです。ただ一つ『そこに生徒さんたちの笑顔が存在するのかどうか？』。

それが当時のわたくしにとつては何より重要なことなりました。

しかしどうしてここまでの思いで生徒さんたちの〈笑顔〉にこだわりレッスンをしつづけるのか。

そこにはわたくし自身の生い立ちからくるピアノ音楽への熱い思いが大きく関係しているものだとと言えるでしょう。

〈ピアノの音色は心に響く〉と言われています。

楽器の良し悪しはもちろんありますが、心で感じ、脳が察知し、運動神経を通じて一番遠い手の指の先端から奏でられるピアノの音色はその人自身の状況をも映し出します。

不思議なことに長年レッスンをしていると、やってきた子どもが奏でた音だけで、

『あれ？ 今日なんか悲しいことがあったのかな？』とか、

『あ！ 今日はウキウキだね、いいことあったよね?!』

と、すぐわかってしまうのです。

そう、ピアノは生きています！

弾く人の指先を通してそのときの状況をも映し出すのです。

だから面白いのです。

〈生徒がやめないお教室〉と言われつづけ、お陰さまでこれまで30年余りにわたりピアノ講師として人

門初心者の方から上級、そして音楽学校への進学を目指す方まで、とても幅広いレベルの生徒さん方とたくさんのお時間をともに過ごしてきました。

早い方で3歳ごろから習いはじめ、ほとんどの生徒さんがその後10年、15年、20年……とレッスンをしつづけているお教室です。

今までできなかったことができるようになった！

そのときに放たれる〈笑顔〉は何ものにも代えられないわたくしの喜び、そして生きがいです。

この本では長年ピアノレッスンに関わってきたわたくしがさまざまな体験を通してピアノレッスンで得ることができる素晴らしい賜物の数々、そしてどうしたら楽しみながら上達ができるのか？ どうしたらイライラせずに、子どもに練習をさせることができるか？ など……、

お子さんを持つお母さま必見！（笑）

これまで門外不出にしていた情報の数々も思いきって露出していきたくと思っています。

この本がきっかけで多くの方が音楽やピアノレッスンの魅力を知り、一人でも多くの人たちが気楽にピアノ音楽に触れ、楽しむことができるようになっていただきたいと心より願っております。

2024年1月